

イタリアンライグラスと大豆を組み合わせた 高蛋白質粗飼料の無農薬栽培体系

研究のねらい

近年アメリカでは、新たな高蛋白質粗飼料として飼料用大豆が注目されている。しかし、国内には飼料用大豆の登録農薬がないため雑草防除が難しい。そこで、イタリアンライグラスをリビングマルチ利用することによって、大豆を除草剤なしで栽培する作付体系を開発する。

成果の内容

- ①秋播き性程度の高いイタリアンライグラス（エース）を4月に播種すると、6月には粗蛋白質含量13%程度の粗飼料が、乾物で約450kg/10a得られる。さらにその再生草をリビングマルチ（雑草抑制機能をもった被覆作物）として不耕起で飼料用大豆（黒千石）を栽培すると、10月には粗蛋白質含量20%程度の粗飼料が、乾物で約500kg/10a得られる（図1）。
- ②この体系では、イタリアンライグラス、大豆ともに除草剤なしで雑草を防除できるので、農薬施用の必要はない。雑草抑制のためのイタリアンライグラスの適正播種量は5kg/10aである。

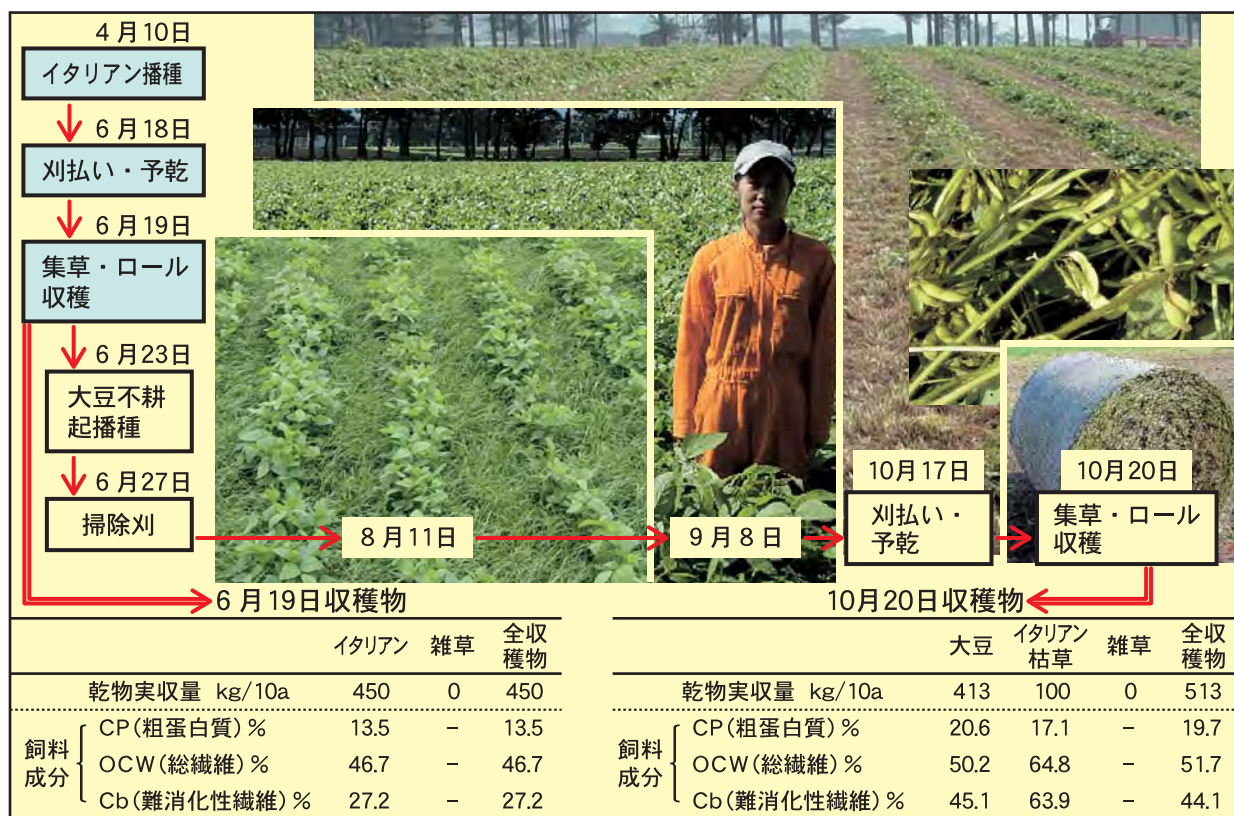


図1 イタリアンライグラス-大豆無農薬栽培体系の実証試験における栽培概要と収量性
不耕起播種機は「John Deere JD-1750,4」に大豆播種ユニットを装着

成果の利活用

- ①作付体系は寒冷地向けであるが、その要素技術である「イタリアンライグラス再生草を利用したりリビングマルチ栽培」は温暖地へも適用が可能である。

